

## 第四十三回 歯と病気との関係

前歯から等距離のある奥歯に咬み合せの高さが左右違ってきますと必ずその歯と関係のある首の骨・背骨が回転ねじれの変位をおこすものです。

そして頭のテッペン(頭頂骨)もその歯と関係のある位置で天ビンのように左右が片方が下がり反対側は膨れ上がりするものです。

ところが前歯から等距離の左右の歯が他の歯よりも強くあたってきますとその歯と関係のある首の骨・背骨は後方へズレをおこすものです。つまり「ねこ背」となります。

そして頭のテッペン(頭頂骨)はその歯と関係のある位置で真中及び左右共に膨れ上がります。年齢の若い時期には歯がバランスよく前後に並んでいたものが奥歯の歯の治療、歯に冠を覆せたり、歯を抜いたりしますと必ず歯の咬み合せの高さが低くなるものです。

最初は片側の歯だけ治療する為に左右のバランスを崩し、さらに左右の奥歯が無くなりますと残っているのが前寄りの歯だけだとしますと奥歯と比較して前寄りの歯が奥より咬み合せの高さが高くなるものです。その為背中(前寄りの歯と関係ある)はねこ背、下部(奥歯)はすべり症ぎみの背骨となります。

逆に前歯から左右の等距離の歯が低いと首の骨・背骨は前方へズレることになります。(背骨の上から3番目の骨が前方へズレると無意識に咳が出る)、そしてその歯と関係のある頭頂骨の位置がくぼみ、大脳始め、体全体の血流障害をおこします。

このように骨がズレることによりギクシャクするというだけでなく、頭の後から首の後そして左右の両肩から背骨の上1/3に走っている菱形をした僧帽筋がどこか1カ所の骨がズレますと僧帽筋が引張られて、僧帽筋全体が凝るということになります。(首のむちうちも同じ)

このように内臓始め体の1カ所が異常をおこしますと必ず頭蓋骨始め体全体の骨に異常をきたしそのズレが大きくなりますと頭蓋骨からおしりの真中の骨である仙骨迄異常をきたし、交通事故にならなくても骨と骨との継ぎ目が大きなズレをおこしますと脳脊髄液が漏れて脳脊髄液減少症をおこすものです。

つまり脳内に脳脊髄液が満タンに満たされなくなり脳が周囲の骨にあたって痛いということになります。

又背骨の各骨から各内臓へ神経が走っているものです。

背骨がズレることにより内臓にも影響するものです。

(例として)

糖尿病の人は首の骨では上から4番目、背骨では上から6番目の骨にズレをおこしているものです。

このように神経が頭の脳から(一部はおしりの仙骨から)始まり骨と骨との間から神経が筋肉、関

節、内臓へ支配しているものですが骨がズれることにより体全体の血流が悪く(水道のホースを捻ると水の出が悪い)、筋肉、内臓ならばそこが血流が悪い為に他と比較して冷たく、硬くなっているものです。

人間の体はそこだけ悪くなるということは絶対に無いものです。

例えば足のヒザが痛いというならば同側の手の腕のヒジに異常をおこし、足首が痛いというならば手首に異常、足のつけ根の股関節が悪ければ同側の肩に異常をおこすものですが、おしりの真中の仙骨に異常をおこしていますと同側ではなく左右が逆になります。(血流も同じです)

顎関節及び関節円板を正常にしてスグに歯の咬み合せの調節すると血流がよくなる為、内臓の痛み、冷たさ、硬さが軽い症状ならば一瞬に無くなり、肩が痛いとかヒザが痛いとか患者が言っても知らん顔をしとければよいものです。

血流が勝手に治してくれるものです。

急性の病気では薬は体が欲求しているならば、骨のズレ血流障害はおこさないですが慢性の病気になりますと体が拒否反応するものです。そして必ず血流障害もおこすものです。

顎関節症を治しながら薬の量を少しずつ少なくしていかなければなりません。症状が消えたからと言って急に薬の服用を止めるとスグに元に戻ります。

前回のコラムで「百会」と「印堂」について説明を致しました。

「百会」は前寄りの歯が歯の咬み合せが高く感じるものです。

「印堂」は奥寄りの歯が歯の咬み合せが高く感じるものです。

おしりの骨盤には3つの骨から成り足のつけ根と接している左右の腸骨と左右の腸骨と腸骨の間の仙骨の3つから成り立っています。

この仙骨の下には尾骨、上には背骨と接しています。

この仙骨は頭蓋骨の後頭骨とお互いに補正し合っています。

この後頭骨は首の骨と接しています。そして仙骨がズれますと後頭骨もズれるものです。

この仙骨の背骨と接している上部が前方へ傾き、尾骨と接しているところが後方へ傾きますと病気でいう慢性の症状を表し、必ず「百会」の反応の血流障害を表わしています。

仙骨の上部が後方へ傾き下部は前方へ傾きますと病気でいう急性の症状で「印堂」の反応の血流障害を表わしています。

仙骨の傾きを中立な状態に持って来ますと全身の血流が良くなり体が暖たたく、血がよく流れる為に、足も頭も体も軽くなるものです。そして、癌を始め、慢性の病気だけでなく、免疫力も増すものです。

仙骨を中立の状態に持ってくるにはそれは上下の歯を咬みしめた時の大脳の反応を読みとることです。(これから先説明は難しいので省略します)